

災害に備える



①消防防災ヘリ救助訓練 ③太田町長が協定を締結しているニセコ町・池田町と通信訓練 ④初期消火訓練 ⑤被害状況の情報をまとめる町消防団 ⑥⑦自衛隊と日赤奉仕団などによる炊き出し訓練 ⑧⑨伊達地方消防組合と日本赤十字社による応急手当講習



総合防災訓練が行われました。防災訓練では避難経路の確認などさまざまな訓練が行われ、参加者は日頃から災害に備えることの大切さを学びました。

3年ぶりの総合防災訓練

平成28年度国見町総合防災訓練が9月11日、町内一時避難所や上野台運動公園で行われ、第1部に約3千人、第2部に約1千人が参加しました。今回の総合防災訓練は「午前7時30分、震度7の地震が発生。町内全域で多くの建物が倒壊、一部では火災が発生。ケガ人も多く、地震発生と同時に電気・ガス・水道はストップし、電話もほとんどつながらない状況」という想定で行われました。全町民を対象とした総合防災訓練は3年ぶりの開催となり、第1部では自宅から一時避難

関係機関や団体との「つながり」を確認

今回の総合防災訓練には、町消防団や日本赤十字社福島県支部など20団体以上の関係機関や団体が参加しました。町職員と消防団による被害状況の情報収集や陸上自衛隊第44普通科連

隊と国見町赤十字奉仕団による炊き出し訓練、ヤマト運輸株式会社による救援物資輸送訓練など連携した訓練が行われました。

また通信訓練では、NTT東日本の衛星電話を使用し、災害時相互応援協定を締結している北海道ニセコ町の片山健也町長と岐阜県池田町の岡崎和夫町長へ太田久雄町長が被害状況を報告し、応援を要請しました。

災害に備える

今年の総合防災訓練で

は、多数の関係機関や団体の協力により、官民一体となって、非常時に連携して対応することを確認しました。

災害時に生命と財産を守るためには日頃からの備えが重要です。一人一人が災害に対し、日頃から備えておくことが「自助」につながります。さらに、家族や近所、町内会など身近な人との普段からの「つながり」や「助け合い」といった「連携」が災害時の「共助」へつながり、被害拡大を防ぎます。

参加者の声

災害はいつ来てもおかしくありません。総合防災訓練はとても有益な訓練だったと思います。繰り返し訓練することが大事です。今回は大規模な訓練でしたが「自助」「共助」の足元の備えを意識した訓練を行い、意識を高めることも重要だと感じました。

錦町町内会長 花井 忠さん

今回の訓練に参加し、町の迅速な対応と町民のみなさんの協力する姿が印象的でした。災害はいつ起こるか分からないため早めの準備が大切だと思います。

県北中3年 佐藤 悠貴也さん

今回訓練に参加し、高齢者の方が多いと感じました。その中で若い世代は避難誘導や被害拡大の防止など何かできることがあると思います。災害時に迅速な対応ができるよう防災への意識を高めたいです。

県北中3年 八巻 大夢さん

訓練だから落ち着いて行動できたけど、本当に災害が起こったらパニックになって今日みたいには動けないと思いました。本当に災害が起こった時には落ち着いて行動し、すみやかに避難したいです。

国見小6年 遠藤 優輝さん

朝8時に役場からの放送が聞こえ、みんなが小学校の校門の前に集まりました。

私は放送をよく聞いて、すばやく行動し、校門の前に移動することができました。みんながそろそろまでに時間がかかったので、普段からきびきび行動することを大切にし、生活したいです。

国見小6年 阿部 望乃さん